2025年度　事　業　報　告

自　2025年4月 1 日
至　2026年3月31日

１．会員の状況

2025年度内会員の異動

退会　　2社
入会　　0社
2025年度末現在の会員　　22社

２．会議

Ａ．理事会

・第35回　2025年6月6日
　１）第14回社員総会議案審議

・第36回　2025年6月6日
　１）代表理事及び業務執行理事選任の件

・第37回　2026年1月23日
　１）2025年度上期事業報告
　２）2026年度暫定予算承認の件

Ｂ．総会

・第14回社員総会　2025年6月6日
　１）2024年度事業報告ならびに収支決算の承認を求める件
　２）理事・監事選任の件
　３）2025年度事業計画に関する件
　４）2025年度収支予算の承認を求める件
　５）2025年度会費徴収方法の承認を求める件

３．運営委員会の活動

１）毎月１回、定例会議を開催し、総会および理事会の方針に沿って、重要事項の審議や策定に取り組んだ。

（１）事業計画（案）および収支予算（案）を策定した。

（２）会費徴収（案）について審議を行い、案を策定した。

（３）規定の組織名称の改称に関し審議を行い、改称を決定した。

（４）国土交通省が実施する令和７年度「道路ふれあい月間」（8 月 1 日～31 日）の趣旨に賛同し、協賛することを決定した。

（５）北海道土木技術会 鋼道路橋研究委員会 令和７年度総会に出席した。

（６） ハイウェイテクノフェア 2025 への出展について協議を行い、出展することを決めた。

（７）一般社団法人 九州橋梁・構造工学研究会および一般社団法人ゴム支承協会との共催により、沖縄地区および金沢地区において支承講習会を開催した。

４．各委員会報告

Ａ．技術委員会報告

１）橋梁技術調査、現場見学会の開催

2025 年度は、各種委員会（道示改訂含む）／講習会対応を優先したため、時間の捻出が難しく単独での開催は見送った。

そのため、小規模な開催となったが、KABSE と連携した支承講習会を沖縄で開催した際、那覇市内の橋梁を可能な範囲で見て回り、特にモノレール用支承、軌道桁の切り替え構造などの見学を行った。

２）道路橋示方書・道路橋支承便覧改訂に関する検討課題

（１）支承部に用いる部分溶け込み溶接に関する実験的・解析的な検討

大学との共同研究の枠組みで、過年度の実験結果に関する FEM 解析を実施し、応力伝達メカニズムの解明を行っている。

2026 年度は道示改訂を受け、今後、支承便覧の議論も進んで行くため、その工程を念頭に本件の吟味を進めて行く予定。

（２）異形化アンカーボルトの仕様見直し（コンクリート付着強度の確認実験）

試験計画の詳細吟味を実施。また、異形化アンカーボルトの製作現場（西村鉄工）の工場見学を行い、生産工程を加味した新仕様の設定を行った。

現在、試験実施に向けて委託（連携）先の探索を行っている。

３）道路協会活動

（１）橋梁委員会

「支承 WG」、「支承・伸縮装置・ダンパーWG」において、幹事（日本支承協会技術委員長名）

および委員（技術委員）を派遣し、WG 主査、土木研究所とともに委員会運営、議論の誘導を実施し、令和 8 年版／道路橋示方書改訂まで完了した。

（２）質問対応 WG（道路橋示方書に関する QA 対応）

（３）英文化 SWG（道路橋支承便覧の英訳作業）

４）共同研究

（１）振り子型支承の橋梁への適用に関する検討

振り子型支承の限界状態の設定およびその確認実験に関する検討を実施した。

2026 年度には、載荷試験を行い、その知見は、マニュアルの中に反映されていく予定。

（２）実大ゴム支承の耐震性能の評価手法に関する共同研究

2023～2024 年度に e-isolation にて NR ゴム支承の実大動的実験を実施し、得られた知見の吟味および論文発表を行った。また、2025 年度は NR での追加実験および HDRS ゴム支承を用いた検証実験を実施し、現在、全体のとりまとめを行っている。

５）その他の活動

（１）土木学会複合構造委員会「土木構造物の 300 年暴露プロジェクト小委員会」

土木構造物の超長期的な持続可能性の実現を目指し、その一環として橋梁を構成する主要部材の暴露試験を実施し、ゴム支承においても、サンプル試験体を大阪工業大学に設置（2022 年度）している。

2025 年度は、設置から 3 年が経過。（引き続き、暴露試験を継続）

（２）ゴム工業会「免震ゴム・ゴム支承分科会」

免震ゴム支承に関する ISO、JIS の規定化および、それらの更新／改訂を議論する分科会に参加。橋梁および建築用支承を対象にした議論を進めている。

６）エキスパンションジョイント分科会報告

（１）各社の最新仕様に基づき「モジュラージョイントの品質要領」の改訂を行った。

（2025 年 12 月改訂完了）

（２）NEXCO 点検要領に基づき「モジュラー型伸縮装置のジョイントの品質要領」の【点検の種類】、【点検の頻度】などの改訂を行った。

（2026 年 2 月改訂完了）。

（３）建設物価調査会「建設 MiL」の伸縮装置選定ホームページに関して、提出資料の内容協議やホームページの動作確認、不備・要望事項を整理した。

（４）令和 7 年道路橋示方書の読み合わせを行い、内容に関して協議を行った。

（５）各工事案件に関して、製作方法や特殊対応した事例などの協議を行った。

・歩道部チェッカーPL の角部の処理に関して

・伸縮装置車線毎の交換時のシールゴムの施工方法に関して

・海外で生産された建設資材の取り扱いに関して

Ｂ．企画委員会報告

１）日本支承協会主催の講習会の開催について

（１）一般社団法人九州橋梁・構造工学研究会（KABSE）と一般社団法人ゴム支承協会と共催し、2024 年能登半島地震の被害調査速報、2016 年熊本地震の被災分析を報告する講習会を行った。

・沖縄開催　沖縄産業支援センター　3 階　中ホール

開催日：2025 年 4 月 17 日(木)　13:00～16:30

・北陸開催　金沢勤労者プラザ　101 研修室

開催日：2025 年 10 月 16 日(木)　13:00～16:30

２）各種協会等との交流・協力について

（１）一般社団法人日本橋梁建設協会、一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会、一般社団法人建設コンサルタンツ協会、一般財団法人橋梁調査会など、関係団体との連絡を密にし、良好な関係性の維持に努めた。

（２）講習会の協力については、協会 HP に国土交通省近畿地方整備局道路工事課より、工場見学を主とした講習の依頼があったが、当協会会員会社の場所が遠方のため、今回は、稟議が通らなく見送りとなった。

茨城県建設コンサルタンツ協会より、2026 年度秋ごろにとの依頼があった。

（３）阪神高速道路株式会社と当協会にて、若手職員向けの技術交流会を行っていくこととなった。

・第１回「震災資料保管庫」見学会を実施

開催日：2025 年 9 月 25 日（木）

・第２回「川金コアテック工場」見学会を実施

開催日：2026 年 1 月 22 日（木）

３）市場調査規模、動向調査について

（１）講習会時にアンケートを取り、現状の関心ごとの情報収集を行った。

４）製品 PR 分科会の活動報告

（１）インテリジェント支承について

・インテリジェント支承は、開発されてから時間がたっているため、現在でもニーズはあるのか、また、売り込むための優位性はあるのかの再検討を行った。

（２）落下防止装置について

・共通仕様書に Q&A を追記し整備、BOX へ保存。

・ネットの設置方法から外し方までが分かる動画を作成し整備、BOX へ保存。

（３）ハイウェイテクノフェアへの対応（2025 年 10 月 16 日～17 日）

・首都高技術株式会社からブース対応の打診があったため、PR 分科会で対応した。

Ｃ．保全委員会報告

１）支承の若返り工法に関する現場視察

（１）レーザーを用いた既設亜鉛メッキ除去に関する勉強会（2026 年 5 月末実施予定）

２）支承の簡易補修キット試験施工

（1）2022 年 7 月 22 日に作製した 4 種類の暴露試験体（一般環境）の継続観察、暴露は 5 年間継続予定。

・CCP-177（エポキシ樹脂系、2 液スプレー）×

・NEXT（エポキシ樹脂系、2 液スプレー）○

・ターマラスト（高濃度カルシウムスルフォン酸アルキド樹脂、1 液スプレー）○

・SRI 防錆スプレーK（エポキシ樹脂系、1 液スプレー）×

（2）複合サイクル試験による塩害環境での性能確認

・NEXT、ターマラストについて複合サイクル試験を実施（北陸 5 年相当)。

3）ローラー支承における機能回復の検証

（1）条件を変えた試験体を 4 基作製

・現状を保持　1 基

・現状に若返り工法（Zn-Al）+グリスアップ　1 基

・発錆　1 基

・発錆させた後に若返り工法（Al-Mg）+グリスアップ　1 基

（2）摺動特性に主眼を置いた比較試験を実施

・若返り工法+グリスアップ実施により、機能回復を確認した。特にローラー部のブラスト、清掃、ピニオンギア部の異物除去の効果は大きい。

4）ブラストノズル・装置の改良

・射角ノズル+延長パイプと握り手追加により現場にて検証実施。

・狭隘部での作業性は良好。ただし、やや表面粗さが不足した。表面粗さの確保が課題。

5）支承の若返り工法の施工基準改定

・ローラー部への溶射適用についての留意事項、および BP 支承のシーリング部への養生方法について追記した。

D．　広報委員会報告

1）協会誌「かなめ」No.24 発刊について

2026 年 3 月に発刊を完了した。

（1）表紙　港大橋

（2）巻頭言　金治様（一般財団法人阪神高速先進技術研究所）

（3）「全国の橋と支承」について、全国の紹介と兵庫県南部地震から 30 年を経過したことを受け、大きく被災した構造物の復興内容をまとめた。

（4）橋のある風景　ムンバイ湾横断道路（インド）

（5）技術編　能登半島地震の調査報告を掲載

2）ネットワーク Vol.4 発刊について

2026 年度に、協会会員を 1 社選定し、事業紹介を中心とした内容にて発刊する事とした。

3）支承協会パンフレットの印刷について

2025 年度に 500 部発注済みのうち、250 部の印刷を行った。

残りは会員の増減を反映した形で 2026 年度に印刷を予定する事とした。

E． 当協会の関連機関

公益社団法人　日本道路協会
公益社団法人　土木学会
一般社団法人　日本橋梁建設協会
一般社団法人　プレストレスト・コンクリート建設業協会
公益財団法人　高速道路調査会
一般財団法人　橋梁調査会
一般社団法人　日本鋳鍛鋼会
北海道土木技術会　コンクリート研究委員会
北海道土木技術会　鋼道路橋研究委員会